

## 食品中の放射性物質検査結果(平成30年度)

平成23年3月に、東日本大震災による福島第一原子力発電所事故がおき、食品中の放射性物質検査が急務となりました。そこで、横浜市衛生研究所においてもガンマ線核種分析装置を導入し、平成23年7月から検査を行っています。

平成30年度に当所で行った食品の検査結果は表1～4のとおりです。放射性セシウム(Cs)を検出したものは466検体中9検体(きのこ類5検体、たけのこ1検体、そばの実1検体、大豆1検体、れんこん1検体)ありましたが、基準値※を超えた検体はありませんでした。

※ 放射性Csの基準値(Cs-134とCs-137の合計)

乳児用食品:50Bq/kg、飲料水:10Bq/kg、牛乳:50Bq/kg、一般食品:100Bq/kg

表1 検体の種類及び数並びに放射性Cs検出検体数

検体の種類	説明	検査検体数	放射性Cs検出検体数
市内産農産物	横浜市内産の農産物	22	2
市内産水産物	横浜市内漁港水揚げの魚介類	60	0
市内産畜産物	横浜市内産の原乳	4	0
市内量販店流通食品	横浜市内で流通している食品	21	0
他県産流通食品	インターネット通信販売で購入した他県産の農産物など	10	7
小学校給食	米類及び牛乳	349	0
合 計		466	9

表2 検体の内訳

検体の種類	品名([ ]内は検体数)
市内産農産物	うめ[1]、かき[1]、かぶ[2]、キャベツ[1]、きゅうり[1]、こまつな[2]、米(玄米)[1]、さつまいも[1]、さといも[1]、しいたけ(生)[1]、だいこん[1]、たけのこ[1]、トマト[1]、なす[1]、日本なし[1]、にんじん[1]、ねぎ[1]、ばれいしょ[1]、ぶどう[1]、ほうれんそう[1]
市内産水産物	アカカマス[3]、アカメフグ[2]、アナゴ[1]、イボダイ[1]、コノシロ[1]、シログチ[10]、スズキ[15]、タチウオ[15]、チゴダラ[1]、ヒラメ[2]、ホウボウ[3]、マコガレイ[1]、マサバ[1]、マダイ[3]、メイタガレイ[1]
市内産畜産物	原乳[4]
市内量販店流通食品	果実酒[1]、牛乳[7]、小麦粉[1]、米(精米)[2]、こんにゃく[1]、乳飲料[2]、乳児用食品[6]、ミネラルウォーター[1]
他県産流通食品	きのこ類:さもだし(ならたけ)[1]、本しめじ[1]、まいたけ[1]、むきたけ[2]、そばの実[1]、大豆[1]、日本なし[1]、白桃果実ゼリー[1]、れんこん[1]
小学校給食	牛乳[174]、米(精米)[92]、胚芽米[37]、麦[46]

表3 市内産農産物の放射性Cs検出検体の検査結果

品名	検体数 (Cs検出数)	検出値(Bq/kg)		
		Cs-134	Cs-137	Cs合計
しいたけ(生)	1(1)	不検出(<0.803)	4.83	4.8
たけのこ	1(1)	不検出(<0.682)	2.21	2.2
合計	2(2)			

不検出の( )内数値は、検出限界値

表4 他県産流通食品の放射性Cs検査結果

品名	産地	検体数 (Cs検出数)	検出値(Bq/kg)		
			Cs-134	Cs-137	Cs合計
きのこ類					
さもだし(ならたけ)	青森県	1(1)	不検出(<2.48)	3.38	3.4
本しめじ	岩手県	1(1)	不検出(<3.06)	16.8	17
まいたけ	山形県	1(0)	不検出(<2.80)	不検出(<2.97)	不検出(<5.8)
むきたけ	山形県	1(1)	不検出(<2.78)	16.8	17
むきたけ	茨城県	1(1)	不検出(<2.38)	4.15	4.2
そばの実	福島県	1(1)	不検出(<0.885)	0.806	0.81
大豆	宮城県	1(1)	不検出(<1.07)	2.54	2.5
日本なし	福島県	1(0)	不検出(<0.650)	不検出(<0.643)	不検出(<1.3)
れんこん	茨城県	1(1)	不検出(<0.664)	4.53	4.5
白桃果実ゼリー	福島県	1(0)	不検出(<0.599)	不検出(<0.527)	不検出(<1.1)
合計		10(7)			

試料量:きのこ類 約90mL、その他 約1500mL

インターネット通信販売で購入

不検出の( )内数値は、検出限界値

【 理化学検査研究課 環境化学担当 】